

健康ぐんま

第38号

KENKO-GUNMA
2006 Winter



「空に遊ぶ」

写真提供／キャンノンフォトクラブ群馬 井田洋子

新年のごあいさつ | 2・3

がんとともに生きる 患者と家族への支援

神田 清子 | 4・5

アスベストによる健康被害 高橋 健郎 | 6・7

花粉症について 三浦 信明 | 8・9

郷土の健康づくりを支えた人たち 長澤理玄 | 10・11

健康づくり実践市町村紹介【邑楽町】 | 12・13

群馬のウォーキングコース【伊勢崎市・藤岡市】 | 14・15

HPV(ヒト・パピローマウイルス)検査事業 | 16

温泉アドバイザーについて | 17

財団からのお知らせ | 18・20

新年のごあいさつ



財団法人 群馬県健康づくり財団理事長

鶴谷 嘉武

新年あけましておめでとうございます。県民の皆様におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、国内外を問わず様々な事件・事故・災害が多発しました。ＪＲ福知山線脱線事故を始め、東京では震度５強、宮城県沖では震度６弱の地震発生その他、台風１４号は大きな爪跡を残すに至りました。アメリカ南部を襲ったハリケーンも記憶に新しいところであります。被害・被災に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。

昨今、メディアから流れる幾多の出来事を見るにつけ、変化し続ける社会情勢の枠組みの中で戸惑い悩む人々の心を感じております。家庭、教育現場、職場でストレスにさらされながらうまく対処できず、他人を傷つけたり自らの命を絶つことも少なくありません。

平成１５年には自殺者が３４、４００人を超え、過労自殺も増加の傾向にあります。様々な場におけるメンタルヘルス対策が重要視されています。

「心」の問題は決して特異なことではなく、誰にとっても起こりうることです。「心身共に健康」という言葉があるように、「心」と「身」のバランスが保たれていることで私たちは安心して、活力のある生活を送ることができるのです。

当財団は昭和６２年の設立以来、２０年に亘り各種健（検）診検査事業や健康に関わる普及啓発事業を通して、県民の健康づくりを行ってまいりました。昨年から「心身の健康づくり事業」を開始し、健康診断で培った早期発見・早期治療の経験を活かし、専門機関との連携のもとに、早めのスクリーニングや専門機関との連携、個別カウンセリング等を実施しています。

平成１６年における群馬県の平均寿命は、男性７８・７０歳、女性８５・３４歳とのことです。次代を担う子どもたちから一時代を築いた高齢者の方まで、あらゆる世代の人々が明るく健やかに過ごせるよう、今年も職員一丸となって地域に根ざした健康づくりのお手伝いに邁進する所存であります。

本年も、皆様の御健康と御活躍を心からお祈り申し上げて、新年の御挨拶とさせていただきます。



群馬県知事

小寺弘之

明けましておめでとうございます。皆さまには輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。二十一世紀の扉が開かれて五年。群馬県では、これまで努力を積み重ねてきたことや、全国に先駆けて取り組んできたことが着実に実を結びつつあります。

昨年、尾瀬保護財団が設立十周年を迎えるとともに、尾瀬がラムサール条約締結国会議において国際的に重要な湿地として登録されました。群馬交響楽団は、音楽を通して私たちに夢と希望を与え続け六十周年を迎えました。いずれも県民の皆さんに支えられ大きく育っています。

県内経済は全体としては回復基調にあり明るい方向に進んでいます。景気回復を実感できない中小企業もあります。私はこうしたところにも光が当たるように配慮してまいります。また、本県財政状況は国の三位一体の改革などにより、依然として厳しい状況にありますが、理事制の導入や県民局の設置、職員の削減など行財政改革を加速させながら、県民生活に密着した事業を積極的に進めていきます。

私は、昨年十一月に台湾で開催された台北国際旅行博に日本側代表として出席し、県内観光関係団体の皆さんとともにトップセールスを展開してまいりました。四季の変化に富んだ景色や温泉、雪など、群馬の素晴らしい台湾をはじめアジア各国から注目を集めています。このほか県内には、名所旧跡や博物館、美術館、そして県立ぐんま天文台や昨年オープンした県立ぐんま昆虫の森など多くの観光資源があります。点として存在している資源を線で結び、さらに面的な広がりを持たせ、県全体の魅力を高めていきたいと思えます。

四季折々の美しい自然や着々と建設が進む北関東自動車道、災害も少なく農産物も身近で生産されるなど、群馬県は人が暮らすのに大変豊かな地域です。また、合併も進み四月には三十九市町村となるなど新しい群馬の姿ができています。

群馬の素晴らしい自然環境と都市の利便性を享受できる二十一世紀の新しい群馬県を、県民の皆さんと一緒に考え、つくっていききたいと考えています。

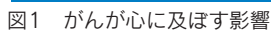
今年一年が、二百万県民の皆さんにとって健康で幸多き年になりますよう心からお祈り申し上げます。

平成十八年一月一日

はじめに

がん診断時の患者の心理と支援

看護師は、「爆弾とも言えるがん診断時の



4

ともに考える明日の看護・ケア

平成17年6月に行われた「第2回がん看護フォーラム・群馬がん看護研究会活動」では、ひまわりの会会員から「がんとともに生きる」というテーマで特別講演をしていただきました。妊娠中の卵巣がんの発症から手術、そして抗がん剤治療、その後のお子様誕生と現在のボランティア活動への参加などの体験談をうかがい、「思いやり」「気づき」「看護の専門性」を再認識することができました。また会場のがん患者との意見交換を通じ、私たちは患者になることはできないけれども、がん患者・家族の気持ちに近づき、医療を受ける側と医療提供する側の溝を埋めることはできると思いました。今後も年1回のフォーラムは、一般市民やがん患者・家族の方に参加いただき、このような貴重な体験を共有していきたいと思っています。

平成18年6月「第3回がん看護フォーラム」では、がんでご主人を亡くした妻（31歳）の体験談について講演をいただく予定です。結婚半年でご主人ががんに罹患、治療の選択がなくなった時、夫婦でハワイに旅行し帰国後2週間が夫が死亡。悔いのない生活求めて決断したご夫婦の生き方とそれを支えた医療者の関わりです。また同時にがん医療・ケアに活用できる資源について専門家の話を予定しております。これらは、がんとともに生きる患者と家族、医療者に大きな示唆を与えてくれるものと確信しております。

がん患者と家族への支援づくり

がん患者・家族が身近に相談できる病院以外の相談機関は非常に重要です。NPO法人群馬がんアカデミー（理事長 桑野博行群馬大学教授）では年4

回、定期的に無料でがん相談会（医療・看護）を開催しております。がん看護研究会では会員を派遣し、抗がん剤による副作用への対処法、療養生活の過ごし方、介護法などの看護相談を受けております。また、自由に自分の思いを語ることが出来る患者会や家族会も大切です。（表1）に筆者らが調査した群馬県内のがん患者会の一部を示しました。会の目的は会員相互の交流や情報交換です。活動内容は、会誌の発行、講演会の開催、電話による相談、定例会などを行っています。

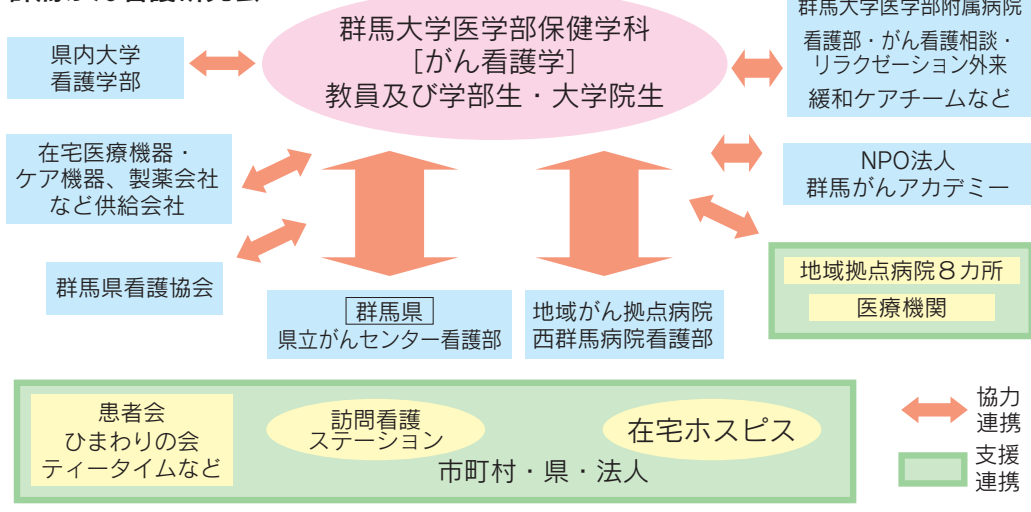
これを年1回「がん看護フォーラム」で配布し紹介しております。健康づくり財団が長年支援してきた「ひまわりの会」では、がん征圧月間に毎年電話相談の活動を行っております。本研究会も地域に開かれた電話相談、情

表1 群馬県内のがん患者・家族会

部位		団体名	本部住所	入会方法
総合	ひまわりの会		前橋市	電話・FAX 健康づくり財団027(269)7812
	死別体験者の集い・分かち合いの会		前橋市	電話・自由参加 群馬ホスピス研究会
	群馬がん患者と家族を支える会		前橋市	電話・関係者に伝達：中国医療研究会
	「がんばってるね」ひまわりの会		前橋市	電話・027(220)8547須川美枝子
	患者と家族の会		前橋市	電話・自由参加 群馬ホスピス研究会
乳腺	あけぼの会		高崎市	電話・HP 027(326)2805本田様
	笑みの会		高崎市	電話027(328)2203
	1・2・3で温泉に入ろう会		富士見村	電話・HP、FAX027(288)8700俵萌子
大腸	女性医師の会		A病院内	関係者に伝達・自由参加
	群馬あかぎ医療会		前橋市	電話・FAX027(231)2860
	ストーマ友の会		C病院内	関係者に伝達
血液	針葉樹の会		B病院内	関係者に伝達
	悪性リンパ腫と戦う会		Web上	http://www7.wisnet.ne.jp/~gia/lymphoma/
喉頭	群鈴会(全国組織：銀鈴会)		前橋市・太田市	電話・HP027(255)6000
婦人科	ティータム		前橋市	電話070(5136)5926

この他の会について情報がありましたら神田027-220-8929(FAX)までご連絡をください。

群馬がん看護研究会



報提供、がんを知って歩む患者への教育など支援体制（図3）を整備することが課題です。がん患者と家族が周囲の人々に「支持されている」と感じることで、できるような群馬のシステムづくりをめざして看護師の力を結集していきたいと考えています。

図3 地域で生活するがん療養者の医療・看護支援ネットワークの構築

アスベストとは

アスベストは繊維性の鉱物で、熱や化学物質によって変化することがなく、電気も伝わりにくく耐熱性に優れ、加えて安価であることから、多くの産業で広く用いられてきました。(図1) これまで商業的に用いられてきたのは、クロシドライト(青石綿)、アモサイト(茶石綿)、クリソタイル(白石綿)という三種類のアスベストです。また、アスベストの繊維(図2)の束は大変砕けやすく、チリのようになって飛散し、空气中を漂います。これらの繊維の太さは、ヒトの髪の毛の数千分の一と大変細いので、呼吸によってヒトの肺の奥深くに入り込み、体内に留まります。(図3)

我が国においては、1970年から1990年にかけて、年間30万トンを超えるアスベストが輸入され、その多くは建材に使用されたと言われています。ビル等の建設業においては、セメント・接着剤の強化、遮蔽^{しやへい}、防火、防音などに用いられ、造船業においては、ボイラー、蒸気・熱湯を通す管の遮蔽に用いられ、自動車工業では、ブレーキ・クラッチのパッドに用いられてきました。現存するまたは過去に存在したら、000種類以上の工業製品がアスベストを含んでいると言われます。



図1 アスベスト原石



図2 アスベスト繊維

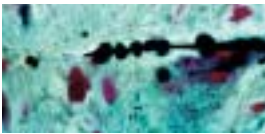


図3 体内に入り込んだアスベスト繊維

群馬県保健予防課 アスベスト対策室長 高橋 健郎

アスベストによる健康被害

アスベスト製品の製造過程などにおいて、環境中にアスベスト繊維が放出され続けたので、世界中の全ての人々が程度の差はありますがアスベストを吸い込んでいます。亡くなられた方の死因の解明のために行われた病理解剖で切り取られた、または何らかの病気の治療のために手術で切り取られた肺を1グラム程度計り取り、顕微鏡でアスベスト繊維を数えると、職業的に多量に吸い込んだ方では乾燥重量1グラムあたり5,000本以上のアスベスト繊維が見つかりますが、アスベストを吸い込んだことが無いはずの一般の方々でも数百本のアスベスト繊維が見つかります。

アスベストに関連した病気を発症する危険性は、どのアスベストをどれほどの量を吸入したかによって異なります。アスベストによる健康被害には主として3種の疾患が知られています。

(1) アスベスト肺

アスベスト吸入により生じた肺線維症をアスベスト肺(石綿肺)と言います。

(2) 肺がん

アスベストを多量に吸い込んだ人に発生しやすいことが判っています。

(3) 中皮腫

アスベストを多量に吸い込んだ人に発症しやすい、胸膜・腹膜その他に発生する悪性腫瘍ですが、アスベストを扱う作業に従事したことがない一般の人にも発症する可能性があります。

一般的に、アスベストを多量に吸入してから中皮腫や肺がんになるまでに10年から40年かかると言われていますので、健康被害の確認には長期的な経過観察が必要です。以前にアスベストを多量に吸入したことがあって、現在以下のような症状がひとつでもあれば、健康診断を受けることをお勧めします。

- (1) 息が切れる
- (2) 咳が出る、または咳の出方が変わってきた
- (3) 肺の中から上がってきた痰に血が混じる
- (4) 胸部または腹部に痛みがある
- (5) 物が飲み込みにくい、または声がかすれる
- (6) 目立った体重減少がある

アスベストと喫煙

アスベスト吸入に喫煙が加わるとさらに危険であり、特に肺がん発症の危険性が非常に高まるという多くの研究結果がでています。逆にアスベストを多量に吸入した喫煙者が、禁煙すれば肺がん発症の危険性が低下するとの研究結果があります。従って、生涯を通じて仕事上でアスベストを多量に吸入した人や、同じくアスベストを吸入した可能性のある人は決してたばこを吸ってはいけません。

アスベストによる健康被害

今後の対応

世界中で既に1・5億トンから2億トンが建物の中に使われていると言われているアスベストは、全面使用禁止が達成されたとしても、これから長期間にわたり大気中に放出される可能性があります。2030年には年間2万人の中皮腫を持った方が出現するという試算データもあります。石綿吹き付けのある建物の解体のピークは2015年あたりになると予想され、それらの作業で引き続きアスベストの吸入が生ずれば中皮腫の発生ピークは更にその後となります。従って、早急にアスベストの使用実態や健康被害を把握して、これからの健康被害の拡大防止、国民の不安解消、過去の被害への対応等を迅速に行うことが何よりも重要となっています。

群馬県での取り組み

群馬県では、群馬県アスベスト対策連絡会議を平成17年7月27日に設置し、総合的な対策を立案しています。12月1日にアスベストに係わる総合相談窓口であるアスベスト対策室を設置し、被害の拡大防止のためには、大気汚染防止法に基づくアスベスト取り扱い事業所への立入検査の実施、建築物の解体時における飛散防止措置の指導、アスベスト廃棄物の適正な処理の指導を行っております。また群馬労働局、産業保健推進センターと連携して、アスベスト取り扱い事業所に関する情報を収集しています。群馬県地域がん登録のデータベースと死亡票（利用についての申請中）を用いて、市町村別の中皮腫発生状況の分析も進めています。

今後は長期間に亘るしつかりとしたアスベスト対策が必要です。

花粉症について



前橋市医師会理事
三浦 信明

【はじめに】

「くしゃみ、鼻水、鼻づまり」が繰り返されるアレルギー性鼻炎は近年その増加が目立っています。それには一年中症状のある「通年性」のものと特定の季節に起こる「季節性」のものがあります。通年性のものの原因として「ダニ」や「ペットの毛やフケ」また、カビによるものがあります。一方、季節性のもものでは春先に多くの人を悩ますスギ・ヒノキ花粉症、初夏に見られるイネ科植物、夏より秋にかけてのブタクサ類の花粉症があります。花粉症の場合は、短期間に大量の花粉にさらされるため、眼のかゆみやのどの痛み、頭痛等、風邪と間違えることもあります。

【アレルギー性鼻炎のメカニズム】

アレルギー性鼻炎は、鼻粘膜が過敏になるために起こります。アレルギーの場合はIgE抗体がつく

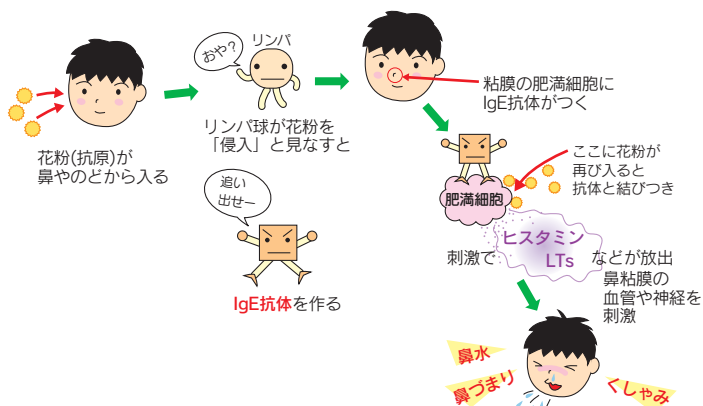


図1 アレルギー性鼻炎のメカニズム

くられ、「肥満細胞」の表面に取り付きやすい性質があります。IgEが肥満細胞に取り付いたところに、同じ抗原が再び侵入してくると、抗原はIgE抗体と結合し、その刺激により肥満細胞からヒスタミンやロイコトリエン（LTs）などの化学伝達物質が放出されます。それらが鼻粘膜の血管や神経を刺激して、くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどの症状を引き起こします。（図1）

植物名	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ハンノキ属	北海道												
	関東												
	関西												
スギ	九州												
	北海道												
	関東												
ヒノキ科	関西												
	九州												
	北海道												
シラカンバ	関東												
	関西												
	九州												
イネ科	北海道												
	関東												
	関西												
ブタクサ属	九州												
	北海道												
	関東												
ヨモギ属	関西												
	九州												
	北海道												
カナムグラ	関東												
	関西												
	九州												

図2 主な原因植物の花粉カレンダー

鼻アレルギー診療ガイドライン—通年性鼻炎と花粉症— 2002年版(改訂第4版)より

重症度	初期治療	軽症	中等症		重症・最重症		
病 型			くしゃみ・ 鼻漏型	鼻漏型または 鼻閉を主とする完全型	くしゃみ・ 鼻漏型	鼻閉型または 鼻閉を主とする完全型	
治 療	①遊離抑制薬 ②第2世代 抗ヒスタミン薬 ③LTs拮抗薬 ①、②、③の いずれか1つ	①第2世代 抗ヒスタミン薬 ②鼻噴霧用 ステロイド薬 ①と点眼薬で治 療を開始し、必要 に応じて②を追加	第2世代 抗ヒスタミン薬 ＋ 鼻噴霧用 ステロイド薬	抗LTs薬 ＋ 鼻噴霧用ステロイド薬 ＋ 第2世代抗ヒスタミン薬	鼻噴霧用 ステロイド薬 ＋ 第2世代 抗ヒスタミン薬	鼻噴霧用ステロイド薬 ＋ 抗LTs薬 ＋ 第2世代抗ヒスタミン薬 必要に応じて点鼻用血管収縮 薬を治療開始時の7～10日間 に限り用いる 鼻閉が特に強い症例では経口 ステロイド薬4～7日間処方 で治療開始することもある	
		点眼用抗ヒスタミン薬または遊離抑制薬				点眼用抗ヒスタミン薬、遊離抑制薬またはステロイド薬	
		鼻閉型で鼻腔形態異常を伴う症例では手術					
		特異的免疫療法					
	抗原除去・回避						

図3重症度に応じた花粉症治療の選択

鼻アレルギー診療ガイドライン—通年性鼻炎と花粉症2005年版(改訂第5版)一部改変 3:84-90,2002より改変

花粉症

診断…問診・視診・鼻汁検査・
皮膚テスト・RAST(特異的I
gE抗体量) 鼻粘膜誘発テスト
花粉症にはスギ花粉以外にもさ
まざまな花粉があります。(図2)
20～30歳代に多いのですが最近
は子どもの花粉症も増えてきてい
ます。

治療

治療には原因となる物質の除去
が第一です。空気清浄機も利用す
るとよいでしょう。スギ花粉では、
最近、飛散の開始時期や毎日の花
粉の飛散予想を各メディアが行っ
ています。その時期、花粉症の人
はマスクや眼鏡を着用するなど自
衛策が必要です。帰宅後、玄関先
で衣服をよくはいたり、うがい
と洗顔をしましょう。そのほか
「規則的な生活をする、過労を避
け、風邪をひかない」といったこ
ともにも注意したいものです。

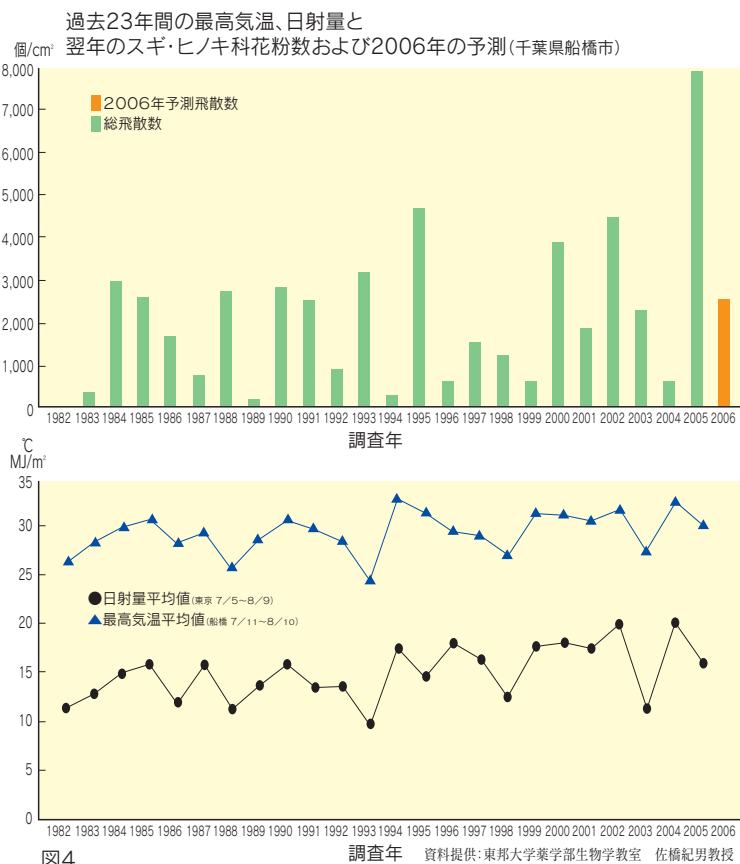
薬物療法として、花粉流行の2
～3週間前より抗アレルギー剤の
第2世代抗ヒスタミン薬を服用す

るのが、よいようです。症状が出た
らLTs拮抗薬の内服やステロイ
ド剤の短期間の内服の追加、また、
局所療法として、点眼用抗ヒスタ
ミン薬、ステロイド剤の鼻粘膜噴
霧等が有効です。更にアレルギー
の原因となる物質を慣れさせる減
感作療法などがあります。(図3)

今年のスギ・ヒノキ 飛散数の予測

スギ飛散予測ですが(図4)、

前年度の夏の気温、日照時間、総
雨量等のデータがそろったところ
で、10～11月に雄花の成長具合を
見定め、さらに1月の気象による
補正作業を重ね検討します。20
05年7月の気温は2004年の
高値から平年並みに戻り、東日本
ではむしろ低いぐらいです。日射
量はやや少ないため、2006年
の飛散数は昨年ほど多いとは考え
にくいようです。



1 天然痘撲滅に生涯を賭けた

館林藩医

長澤理玄

◇著者紹介

石村澄江

館林市出身

「上州文学」編集同人・群馬ペンクラブ会員

館林地方紙研究会会員・音羽会会員

主な著書『女性賛歌－石村節がゆく－』

(エッセイ集) 教育報道社

『痲瘡長屋の名医 種痘に賭けた長澤理玄の生涯』・『二つの祖国で ハル・ライシャワー物語』あさを社

◆天然痘は今…

痲瘡、痘瘡とも呼ばれる天然痘は、かつては全世界に猛威をふるった急性伝染病であった。しかし一七九六年（寛政八）にイギリス人医師エドワード・ジェンナーの発見した種痘法の普及によって急速に減退し、欧米や日本では一九五〇年（昭和二十五）までに根絶し、世界保健機関（WHO）も一九八〇年（昭和五十

五）に天然痘根絶を宣言した。

あれから二十五年。今でも、

世界から天然痘の恐怖が完全に消えたわけではない。「天然痘テロ」といわれる存在である。「米大統領、天然痘ワクチン接種へ」、「天然痘テロに備え研修会―大阪で自治体医師ら参加」、「天然痘感染拡大最小限に―都と警視庁、判別キット」研究・開発」、「都道府県にワクチン配布―厚生労働省イラク問題対策本部」などの文字が新聞紙上に踊る現状にある。根絶されたとい

◆痲瘡医・長澤理玄の誕生

長澤理玄は文化十二年（一八一五）、羽州山形藩主秋元

但馬守城下に、藩医である周玄の子として生まれている。

医家に育った理玄は子供のころから、使い走りに始まる家業の手伝いをしながら成人し

た。至極当たり前のように父親の許で修行を積んでいくなかで、理玄は医師としての素

養を培っていったものと思われる。成人するにつれて彼は、父親から離れて江戸で修行し



長澤理玄の肖像



長澤理玄の墓（館林市・円教寺）

たいと思うようになった。そこへ、藩主秋元志朝候に転封（引越）の沙汰が下った。弘化三年（一八四六）のこと、移封先は上州館林である。むろん理玄一家も引越すことになる。このとき理玄は三十二歳、同い年の妻ふさを娶っていた。

館林は江戸に近い。念願の修行も夢ではなくなった。三年後の嘉永二年（一八四九）、理玄は江戸に旅立つ。深川で小児科医の看板を掲げる桑田立斎の門下に入った。立斎のもとで理玄は手術の経験をも積む。折しも、彼が江戸の立

斎の門弟となったその年に、天然痘の安全な予防法である牛痘種痘法が日本に伝来した。そして立斎は近くに住む伊東玄朴から牛痘苗を分けてもらい、牛痘種痘法に手を染めたばかりであった。理玄は小さい頃から父の許で修行に励んできた過程で、痘瘡にか

かってひどいあばた顔になったり、高熱のために脳を冒されたり、網膜を冒され目が見えなくなったり、果ては、亡くなったりという子供たちを数多く目にしてきた。何とかしたいという気持ちは医師として当然の思いであつたろ

う。立斎について牛痘種痘法を学んだのは言うまでもなかった。

天然痘撲滅のため意気揚々と帰還した理玄を待っていたものは、種痘拒否の大合唱だった。牛の膿など人間に植えたら角が生える、毛むくじやうになる、モウーと鳴くだろうといったデマが飛び交ったのだ。苦悩する理玄に父親の周玄は羽州行きを勧める。羽州には上山、漆山、高嶺などに館林藩の飛び地があり、周玄の弟子も多くいた。かくて理玄は八十里（およそ三二〇キロメートル）の山形へ赴いた。往きだけでも一週間の道程である。

山形での種痘でその安全さが認められると、館林の人たちは今度は率先して予防接種を受けに通ってきて、長澤医院は大繁盛した。藩主の秋元候からご褒美にもらった土地に、理玄は病院の走りともいえる長屋十二棟を建てた。館林城に程近い場所に建つその病棟を、いつしか館林の人は「痘瘡長屋」と呼ぶようになった。

◆エピソード

まず、格好からして並ではない。長身の上に高下駄を履き、朱鞘の長い刀を腰に差して館林の町を闊歩していた。大好きな子供に出会ふと、その格好で宙返りをして見せるのである。画もうまく、藩主の御前で妊婦の絵など書いて見せたりする。空を飛ぶ鳥を見て人間も飛べると考え、羽根をつけて高嶺から飛び降りた。怪我というおまけがついたが、実際に空を飛べる時代は到来している。

の資質をしつかり備えた、且つ、人間味あふれる人物であった。逝つたのは明治の世が目前に迫った文久三年（一八六二）春、齢四十九。妻ふさとの間に子供はなかったから弟の弘が継いだ、弘は若死したため後が続かなかった。その理玄を称えて、山形市の薬師公園には立派な顕彰碑が建てられている。しかし、館林市には立て札一つない。

性格は豪胆、闊達であつたが、緻密にして細心な神経の持ち主であつた。その上、酒脱で機知に富むという、医師として



山形市にある顕彰碑

人と自然にやさしく 魅力ある町づくり

お う ら ま ち 邑楽町

町の花【ヤマツツジ】



邑楽町は、群馬県南東部に位置する東毛広域市町村圏の中でほぼ中央部にあり、邑楽郡に属しています。西は太田市、大泉町、南は千代田町、東は館林市、北は栃木県足利市と接しており、県庁所在地の前橋市からは東に約40 kmの距離に位置しています。町域は東西約6 km、南北約7.7 kmで、町土面積は31.12km²を有しています。

標高は21~28mで、多少の起伏はあるものの、平均25mのなだらかな平坦地となっています。白鳥の訪れる多々良沼や、緑豊かな平地林と広い田園など自然に恵まれた環境にあります。古来より農業を中心に発展してきましたが、道路網の整備による交通の発達に伴い数次にわたる住宅団地や工業団地の造成によって人口が増加し、昭和43年に町制を施行しました。現在は、町の中央部に中央公園が整備され、念願の保健センターも建設中で公共施設が集約されつつあります。

第4次総合計画の最終年に向け「自らの健康は自ら守る。」という考え方を基本とし、健康づくりを展開しています。

少子化対策

① 邑楽町特定不妊治療費助成事業

平成16年度より不妊症のため子どもを希望しながらも恵まれない夫婦への支援として、費用の一部を助成し該当者から好評を得ています。

② 妊婦健診の助成

急激に進む少子化に対応するため、平成16年度より出生前の健診の充実を図るため妊婦健診の医療券を中期分を加え3枚発行しています。

新生児訪問

健やかな赤ちゃんの成長、育児不安の解消、虐待防止対策として保健師による全数家庭訪問を行っています。児の誕生を期に保健師とのかかわりが初めてのかたも多く、町で実施する健診等へと繋がっています。

離乳食相談

月齢に合わせた離乳食の試食を行い正しい離乳食の進め方を学び、将来を健康で生活するための食習慣の基礎づくりを行っています。離乳食相談は、とても好評で多くの参加があり、前期離乳食相談、後期離乳食相談とに分けて行っています。また、お母さん同士の交流の場ともなっています。

絵本の読み聞かせ

8か月児健診時に読み聞かせのボランティアの協力を得て、絵本の読み聞かせを行っています。絵本の読み聞かせは、親と子の豊かな心のふれあいや子どもの想像力を育みます。



乳幼児むし歯対策

乳幼児の保護者に対して歯みがき指導を行い、1歳6か月児、2歳児、2歳6か月児、3歳児にフッ素塗布を行っています。就学までの幼児については保育園、幼稚園の4歳児と5歳児に歯みがき指導を実施しています。



保健推進員

町民と行政とを繋ぐ健康の担い手として全行政区に2から8名、合計100名の保健推進員を配置し、毎月の定例会・研修会を開催しながら町民の健康管理を推進しています。

歯周疾患検診

8020運動の趣旨に基づき、40歳、50歳、60歳、70歳に歯周疾患検診を委託個別検診として行っています。

健康教育

生活習慣病予防のため、日常の心得や食生活のあり方、健康生活のためのポイントなど、講話と調理実習や実技を取り入れた健康教育を行っています。基本健診の説明会や健診結果に基づいた各種健康教室も開催しています。また、高齢者を対象とした地域ふれあい事業を支援しています。

筋力トレーニング教室

高齢者の健康づくりを目的に先進地を視察し、後期高齢者を対象に筋力トレーニングを各行政区の公民館で行っています。方法は音楽に合わせて重垂バンドを付けて行う方法です。各区の区長、ボランティア、民生委員、保健推進員、高齢者クラブが一緒に企画し、保健師が各区に出向いて行っています。

数か所の区では、軌道にのり自分たちで自主的に見えるようになりましました。



健康ウォーキング

健康づくりの一環として、楽しい話と実技指導を交えながらウォーキングの講演会とウォーキングの実践を行っています。町内のウォーキングマップを作成し住民に配布しました。また、自分のお勧めウォーキングコースを募集し、色々な場所でのウォーキングを広めています。



心の健康相談

精神科医師による心の健康相談の場を設けたり、精神障害者の自立や家族への支援を推進しています。

◆ 邑楽町 生活環境課 保健指導室
母子保健係長 中山順子

今号では冬から夏にかけての県内ウォーキングコースを2か所紹介します。
「ウォーキングを始めてみようかな」という方に向けて、距離を短めに設定しました。
それぞれの歴史や豊かな自然にふれながら、まずは楽しく歩いて下さい！

群馬の

ウォーキングコース Walking Course

伊勢崎市

ウォーキングコース 合計 約55分



⑤旧時報鐘楼



⑥同聚院武家門



①いせさき明治館



④伊勢崎河岸灯籠



～編集よりひとこと～

街の中に歴史的な建物が点在し、それぞれの時代に思いを馳せながら歩きました。名物の店に立ち寄って、お土産をたくさん買いました。

①いせさき明治館

明治末年に建てられた県内で最も古いとされる木造洋風医院建築である黒羽根医院旧館（旧今村医院）が市へ寄贈され、平成14年に市民が見守る中、2日かけて現在地へ曳き家移転された。

②伊勢崎神社

建保元年（1213年）に三浦義澄によって創建されたと伝えられている。保食神（うけもちのかみ）など28神を祭る。もとは飯福神社といい、古くから「いいふくさま」と呼ばれ親しまれている。

③相川考古館

相川之賀氏により明治以来収集された約1万点の歴史、民族資料が収蔵されている。中でも「琴を弾く男子像」など4体の男子埴輪像は国指定の重要文化財であり、歴史ファン必見。

④伊勢崎河岸の石灯籠

この付近は江戸時代の河岸で、灯籠は文政2年（1819年）に建てられ、航路安全や水難防止を願って水運の神である住吉大明神・大杉大明神に奉献したもの。

⑤旧時報鐘楼

大正4年、当時横浜の貿易商で伊勢崎出身の小林桂助氏が寄贈した県内最古の鉄筋コンクリート建造物。戦災により棟屋部分は消失したが復元された。ルネサンス風窓とドーム型屋根に特徴があり、大正口マンを今に伝える。

⑥同聚院武家門

稲垣長茂時代の遺構と伝えられる武家門。伊勢崎藩年寄関氏の墓や、樹齢400年の大カヤなどがある。近くにはかつて敵から攻められた時に左右から防ぐためのクランク道路、雁木折りを見ることができる。

少し足を伸ばしてみませんか？

<華蔵寺公園遊園地>

シンボルの大観覧車「ひまわり」をはじめとする多くの乗り物があり、子どもから大人まで楽しめる遊園地。公園には四季を通じて桜やツツジ、花しょうぶなどが咲き誇る。

Walking Course

①みかほみらい館

藤岡・多野地域の複合文化施設であり、大小ホール、ギャラリー、プラネタリウムなどが利用できる。

②ふじの咲く丘ふじふれあい館

市の花「ふじ」をテーマにした全国初のふじの資料館。250mのふじ棚や45品種のふじが咲く見本園は絶景。4月中旬～5月中旬が花の見頃となる。

③庚申山総合公園

市街地の南西に位置する庚申山（標高189.4m）一帯に様々な施設が整備されている県内有数の公園。市民の憩いの場となっている。

→ ③約1,000基の庚申塔が並ぶ男坂を登って庚申山の頂上に。

→ ④女坂を下る。ひょうたん池・だるま池のまわりには散策路があり、のんびりとウォーキングを楽しめる。

→ ⑤子どもたちはミニ遊園地で楽しみ、ミニ動物園でかわいい動物たちとふれあう。



②ふじの咲く丘ふじふれあい館



③男坂から庚申山頂上をのぞむ



④ひょうたん池



少し足を伸ばして
歴史に触れてみませんか

<土師神社・土師の辻>

「日本書紀」に登場し、相撲の始祖であり埴輪づくりの提案者といわれる野見宿禰（のみのすくね）を祀った神社には屋外で行った相撲辻がある。江戸時代には、この土俵の上で出世力士が披露相撲をしたと伝えられている。



<本郷埴輪窯跡>

野見宿禰（のみのすくね）が出雲から300人余りの土師部（はじべ）を呼び士で人馬やいろいろな器物を作り、殉死を防いだことが埴輪起源説と伝えられている。この本郷埴輪窯は明治39年に発見され、その後の発掘調査により5世紀後半から6世紀末まで操業していたことが確認されている。

ウォーキングコース 合計 約55分

⑥	⑤	④	③	②	①
みかほみらい館	ミニ遊園地・ミニ動物園	ひょうたん池・だるま池	庚申山総合公園 庚申山頂上	ふじの咲く丘ふれあい館	みかほみらい館
0.5 km	0.2 km	0.8 km	1.1 km	0.2 km	
10分	5分	15分	20分	5分	

～編集よりひとこと～

木立の中を深呼吸しながら歩くと、気分がよくてリフレッシュできます。ネコがのんびり昼寝をしていて和みました。

群馬の

ウォーキングコース

藤岡市

HPV(ヒト・パピローマウイルス)検査事業

子宮頸がんは予防できるがんなのです

子宮頸がんにかかる若い女性が増えています。

子宮頸がんの発症には、性感染症のひとつであるHPV（ヒト・パピローマウイルス）が関与していることが分かりました。

HPVは、性行為でだれもが感染する可能性のあるありふれたウイルスですが、感染が長期化すると細胞が変化し、やがてがんになることがあります。子宮頸がんを予防するためには、早めの検査で感染の有無を知ることが大切です。

健康づくり財団では、群馬大学・群馬県医師会・日本産婦人科医会
群馬県支部・群馬県と連携協力し、平成18年2月から
HPV（ヒト・パピローマウイルス）検査事業を開始します。

健康づくり財団に申し込むと提携機関のNPO法人からHPV検査キットが送付されます。

自己採取した検体は健康づくり財団に送付して下さい。検査結果はIDとパスワードを使用し、インターネットまたは文書で受け取れます。

このことで「恥ずかしい」「面倒」「時間がない」といったこともなく、気軽に検査を受けていただくことができます。

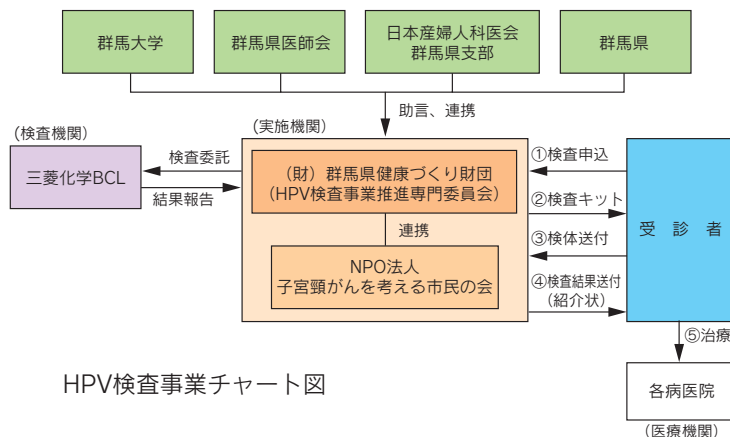
HPV検査結果が陽性の場合には、協力医療機関を紹介します。

当然のことではありますが、プライバシーの保護には万全を期しております。

【HPV検査事業推進専門委員会名簿】

No	氏名	所 属
1	永山 雅之	群馬県医師会理事
2	佐藤 仁	日本産婦人科医会群馬県支部 支部長
3	家坂 利清	日本産婦人科医会群馬県支部 副支部長
4	中島 孝	群馬大学大学院応用腫瘍病理学教授
5	鹿沼 達哉	群馬大学大学院生殖再生分化学助教授
6	真鍋 重夫	群馬県保健予防課長
7	高橋 健郎	群馬県保健予防課アスベスト対策室長
8	末松 直美	群馬県病院局総務課経営企画監
9	渡部 享宏	NPO法人子宮頸がんを考える市民の会事務局長
10	岡 英夫	群馬県健康づくり財団常務理事・事務局長
11	今井 貴子	群馬県健康づくり財団理事・診療部長
12	加藤征一郎	群馬県健康づくり財団検査事業部長
13	杉原 志朗	群馬県健康づくり財団病理検査室長

【事業全体】



温泉

アドバイザーについて

群馬県薬務課

温泉を活用した保健事業の現況について

近年、国民の温泉志向は、歓楽型から保養・休養・療養型へと変化してきており、「心身の癒し」のための温泉の役割が注目されています。

全国的には、平成15年3月の「温泉利用型健康増進施設の実証事業検討会報告書」を踏まえ、同年7月、厚生労働省は健康増進施設認定規程を改正し、「温泉利用プログラム型健康増進施設」として普及型の類型を加えました。現在、(財)日本健康開発財団で温泉利用プログラム型健康増進施設に必要な温泉入浴指導員の講習会が実施されており、高齢者の外出を促進したり介護予防など保健・福祉の分野に温泉を活用する事業が展開されています。群馬県内においても、各市町村を中心として温泉を活用した保健事業が実施されています。

温泉活用に係る諸課題と温泉アドバイザーの目的について

本格的な高齢化社会が到来し、保養・休養・療養を目的とした温泉活用の傾向は、今後ますます強まっていくものと思われ、また、温泉を活用する上で以下のような諸課題もあげられると考えられます。

- ①温泉地へのニーズは高いものの、依然として高齢者の入浴事故が存在する。また、温泉利用の効能面や、温泉地での過ごし方についてもアドバイスする。
- ②温泉地のもつ療養、保養、休養といった面を再認識し、温泉本来の機能に着目した利用を高める。
- ③温泉を健康づくりの場として活用しつつ、保健事業の効果を上げるような方策を高齢化社会への対応という保健・福祉の視点から検討し、温泉行政に反映させる。
- ④温泉を利用した現代的な健康づくりと、安心して入浴できる環境整備を図る。

このような状況の中、群馬県として「温泉を活用した健康づくり」をさらに強力に推進することを目的として、「温泉アドバイザー」の養成を行っています。温泉についての適切な情報提供や入浴指導、健康相談など、温泉利用者が温泉地に求めているサービスに対応できる人材を養成し、受入体制を整備することにより、県内温泉地の魅力を高めることを目的としています。

温泉アドバイザー研修について

(1) 受講対象者

県内で温泉を利用している旅館、ホテル、日帰り温泉施設等の従事者及び観光団体職員等

(2) 研修内容

①温泉アドバイザー養成研修

温泉に関する基礎的な講習（温泉の科学、温泉の表示と浴槽の衛生管理、温泉の効能と副作用、入浴プログラム、入浴事故とその対応、温泉の歴史と文化等）を実施し、温泉利用を適切に指導できる人材を養成する。（平成15年度から平成17年までに308名が修了）

②温泉アドバイザーフォローアップ研修

平成15年度から受講された「温泉アドバイザー養成研修」を修了した方を対象に、養成研修の内容をさらに充実させた2年間の専門研修（温泉分析書や温泉掲示の見方等を学ぶ温泉科学の分野と温泉療養について学ぶ温泉医学）を受講することにより、温泉アドバイザーとしてのさらなる資質向上を図る。



終わりに

研修会を通して、温泉事業者に温泉に関する正しい知識を習得していただくとともに、事業者自らが温泉に関して理解を深め、県内で温泉を利用される方々に対して適切な情報提供を行い、利用者に対するさらなる温泉の有効活用が図られたらよいと考えています。

元気県ぐんま21推進大会開催

群馬県庁 正庁の間・群馬県庁県民ホール



平成17年9月9日～11日、群馬県庁 正庁の間・群馬県庁県民ホールにおいて、「元気県ぐんま21推進大会」が開催されました。
(主催：群馬県・元気県ぐんま21推進会議)

9日の式典は、群馬県庁 正庁の間において午後1時に開催し、知事表彰と財団会長表彰が行われ、家崎会長より授与されました。

県民ホールでは、各種展示コーナーや健康測定を中心とする健康づくりのイベントが行われ、当財団からは脳年齢測定と骨密度検診、マンモグラフィ検診車の展示に参加しました。

なお、財団会長表彰受賞者は次のとおりです。敬称略（ ）は所属

1 健康づくり特別功労者表彰

直田 靖彦（前橋市医師会）	高橋 守（群馬県薬種商協会）
佐藤 光美（群馬県助産師会）	遠藤 和昭（群馬県環境保全協会）
下田 吉夫（群馬県薬剤師会）	一場美根子（高崎保健福祉事務所）

2 健康づくり功労者表彰

有坂 實（太田市医師会）	森田 弘（群馬県医薬品配置協会）
村山 利之（高崎市歯科医師会）	岩崎 俊昌（群馬県環境保全協会）
田村 清（群馬県接骨師会）	野尻 萃平（群馬県浄化槽協会）
高橋 昇（群馬県放射線技師会）	阿部 宏作（群馬県アイバンク）
厚見巳之吉（吾妻町食品衛生協会）	坂庭 正明（前橋保健福祉事務所）
須田 弘子（群馬県美容業生活衛生同業組合）	邊見 春雄（高崎保健福祉事務所）
田邊 晃男（群馬県旅館ホテル生活衛生同業組合）	星野 市子（片品村役場）
平沢 融（群馬県クリーニング環境衛生同業組合）	長岡 一康（公立富岡総合病院）
中島 洋子（群馬県栄養士会）	吉江 篤郎（富岡保健福祉事務所）
辻 弘道（群馬県調理師連合会）	高橋ふさ子（伊勢崎保健福祉事務所）
濱田 孝雄（群馬県薬剤師会）	高瀬 鍋吉（桐生市第14区環境保健組合）
小澤 勇吉（群馬県薬種商協会）	川村 友晴（群馬県鍼灸按摩マッサージ指圧師会）

3 健康づくり功労者感謝状

笠懸町

街頭キャンペーンを実施しました

県庁 県民ホール

●9月 がん征圧月間

『「だいじょうぶ。」思い込まずにがん検診』のスローガンのもと、生活習慣の改善と定期検診の大切さをPRするために、がん克服者の会「ひまわりの会」会員によるキャンペーンが9月10日に行われました。

●9月24～30日 結核予防週間

結核について正しい知識を普及するため、9月11日県民ホールにて結核予防婦人団体連絡協議会群馬県支部（地婦連）の会員とパンフレットやばんそうこうセットを配付し、結核予防キャンペーンを行いました。今回はシールぼうやが登場して子どもたちに風船を配るなど、会場は大いににぎわいました。



紫煙(支援)リボン 受動喫煙防止にむけて

たばこの煙には、喫煙者が吸い込む主流煙と、喫煙者が吐き出す呼出煙、点火したたばこの先端から立ち上る副流煙があります。

受動喫煙とは、喫煙者の周囲の人が本人の意思に関わりなく、環境たばこ煙（副流煙や呼出煙）を吸い込むことをいいます。

環境たばこ煙の8割を占める副流煙は、主流煙よりも有害物質の濃度が高いため、非喫煙者でも受動喫煙によって肺がんや心筋梗塞等の発症のリスクが高まるといわれています。

喫煙による健康被害の認識は高まりつつありますが、禁煙・分煙といった受動喫煙防止対策は、まだまだ不十分です。

前橋保健福祉事務所では、喫煙者而非喫煙者が共存できる快適な空間・環境を構築するやさしさと思いやりの受動喫煙防止対策を象徴する紫煙（支援）リボンを作成しました。

たばこを吸う人は、「私のたばこの煙で周りに迷惑かけません。」と喫煙マナー宣言に、たばこを吸わない人は、「私は煙弱者です。私の周りでたばこを吸わないで。」というメッセージを周囲に送るために活用します。喫煙者而非喫煙者、お互いを配慮しながらそれぞれの立場で受動喫煙の防止を進めましょう。

連絡先 中部県民局
前橋保健福祉事務所
TEL 027(231)7721

紫煙（支援）リボンは前橋保健福祉事務所が新たに考案したものです。
リボンの色は紫です。たばこの煙は紫煙と言われることから、たばこを連想しやすい紫としました。



5月31日は
世界禁煙デー
です。



世界禁煙デーキャンペーン

第49回結核対策推進 優良市町村表彰受賞 鬼石町

東京「ホテルニューオータニ」

平成17年9月28日、東京「ホテルニューオータニ」において平成17年度（第49回）結核対策推進優良市町村表彰式が行われました。

本県からは住民検診の高い受診率や複十字シール運動への取り組みが評価され、結核対策推進優良市町村として財団法人結核予防会総裁秋篠宮妃殿下より鬼石町が表彰されました。



複十字シール募金活動

知事表敬訪問 ～群馬県庁～

平成17年7月25日、初の試みとして結核予防婦人団体連絡協議会群馬県支部（地婦連）神谷トメ会長他、代表者と財団職員により、小寺県知事を表敬訪問し、複十字シール募金運動に対する御理解と御協力をお願いしました。本年4月に結核予防法が改正されたのを機に、8月1日から開始される「複十字シール運動」に合わせ全国一斉に都道府県知事を表敬訪問することになったものです。



部（地婦連）神谷トメ会長他、代表者と財団職員により、小寺県知事を表敬訪問し、複十字シール募金運動に対する御理解と御協力をお願いしました。本年4月に結核予防法が改正されたのを機に、8月1日から開始される「複十字シール運動」に合わせ全国一斉に都道府県知事を表敬訪問することになったものです。

<御協力ありがとうございます>

（株）群桐産業様より多額の募金をいただき、平成17年11月16日、当財団において結核予防会本部からの感謝状・会員記、また財団鶴谷理事長からの感謝状がそれぞれ山口社長に授与されました。



複十字シールの趣旨に賛同していただいた県民の皆様のお協力のもと、12月末日における募金額は9,271,467円になりました。御礼申し上げます。

けいりん号 完成伝達式

東京「ホテルニューオータニ」

平成17年9月28日、「けいりん号」完成伝達式が催され、財団からは、岡常務理事・事務局長が出席し、結核予防会総裁秋篠宮妃殿下から「けいりん号」を受贈しました。日本自転車振興会の補助を受けて、結核予防会本部が各支部に検診車を貸与する事業であり、今後、検診での活躍が期待されます。



ご意見をお待ちしています

今号から「郷土の健康づくりを支えた人たち」を数回に渡ってお送りします。現在ほど医療制度が発達していない時代に多くの困難に直面し、それでも信念をもって人々の健康のために尽くした郷土の先人を紹介する予定です。是非、御感想をお聞かせ下さい。

また、本誌に関する意見や、健康に関する情報もお待ちしております。

表紙コメント

日常の情景もカメラを持つとイメージが膨らんで見えてくる場合があります。写真は青空を主体に、大風とたまたま飛来してきたセスナ機を捉えたものです。強い風と明るい日差しの群馬の冬を実感していただけるでしょうか？

題字／小寺弘之群馬県知事

財団法人群馬県健康づくり財団

登録衛生検査所
政府管掌健康保険指定機関
計量証明事業登録機関
食品衛生登録検査機関
日本消化器集団検診学会認定指導施設
マンモグラフィ検診施設認定施設
日本臨床細胞学会施設認定
臨床研修協力施設

業務部業務推進課

〒371-0005前橋市堀之下町16の1
TEL 027 (269) 7812
FAX 027 (230) 2090
e-mail fukuyu@gunma-hf.jp
http://www.gunmanet.or.jp/gunma-hf/

第19回群馬県地域保健学会開催について

群馬県庁

平成18年2月16日、群馬県庁において標記学会が開催されます。この学会は研究発表を通じて保健衛生の向上を図り、県民の健康増進に寄与するため、また、保健従事者の交流を目的として群馬県と財団が主催するものです。関係者の方々はもとより、広く一般の方々もぜひご来場ください。

■日時・場所：平成18年2月16日(木)群馬県庁

- 特別講演 午前10:00～12:10(28階 281会議室)
講師：安梅 勅江氏 [国立看護大学研究課程(大学院)教授]
テーマ：「地域保健におけるエンパワメント技術の活用」
～当事者主体チームワークの推進に向けて～
- 学会発表 午後13:00～16:10(29階 291・294会議室)
(発表される演題は下記のとおりです)

No	演 題	発 表 者
1	四万温泉地域におけるヤマビルの吸血対象動物の同定	県立小児医療センター 田中 伸久
2	記録による健康管理	県民健康科学大学 飯田 美代子
3	難病相談支援センターにおける特定疾患療養者の自立支援活動	難病相談支援センター 川尻 洋美
4	館林市邑楽郡医師会の在宅医療・訪問看護への取組	館林市邑楽郡医師会 川島 康宏
5	多文化共生社会における外国籍の子供の健康支援 ～3年間の在日外国人学校健康診断の取組から～	群馬大学医学部保健学科 佐藤 由美
6	乳児後期の生活リズムについて	上武大学看護学部 金泉 志保美
7	性感染症対策における思春期ピアカウンセリング導入の試み	藤岡保健福祉事務所 深沢 英子
8	包括的介護予防プログラムの実践結果	吉井町 前田 恵子
9	精神障害者を抱える家族への支援のあり方について ～家族のつとめを実施して～	高崎市 大井 かおり
10	群馬県における措置制度運用の横断検討その1 通報形態と疾患、問題行動の関係と近年の変遷	こころの健康センター 芦名 孝一
11	群馬県精神科救急情報センターにおける地域精神 保健福祉活動(アウトリーチ活動)について	精神科救急情報センター 河合 久代
12	児童虐待死亡事例検証報告	群馬県中央児童相談所 中林 千晶
13	群馬県における臨床検査値の標準化について(第2報)	群馬県健康づくり財団 宮崎 洋道
14	自己健康管理能力の育成を目指した取組について ～学校保健委員会の活動を通して～	県立前橋工業高等学校 山田 房枝
15	外来患者の発熱とC-reactive protein値の 関係に年齢が与える影響	群馬大学大学院環境病態制御系総合医療学 星野 綾美
16	健康づくり財団におけるマンモ併用検診の報告	群馬県健康づくり財団 周東 由希子
17	育児支援による児童虐待防止システム構築の試み	太田保健福祉事務所 佐藤 泰一
18	「健康度評価システム」の研究開発とその応用 ～健康づくりの視点から～	特定非営利活動法人(NPO)健康資源研究開発機構 丸山 悠司
19	認知症高齢者における排泄ケア実態と オムツ外しについて	群馬大学大学院環境病態制御系生体情報学 田中 志子
20	成人歯科保健実態調査報告 第2報	群馬県歯科医師会 中嶋 耕次
21	アレルギー物質を含む食品の検査について ～特定原材料(5品目)表示制度の科学的検証～	食品安全検査センター 小池 裕子
22	2004年に本邦で検出された風疹ウイルスの分子疫学	県衛生環境研究所 塚越 博之

◆本誌は複十字シール募金の益金の一部で作られています。